

青年期の恋愛崩壊に対するコーピングの諸相

—恋愛崩壊のパターンと性別による差異の検討—

専攻 人間発達教育
コース 教育コミュニケーション
学籍番号 M19005H
氏名 馮輝

問題の所在と本研究の目的

青年期の恋愛は必ずしもうまく進むことは限らない。不安定な恋愛に悩んで恋愛関係が崩壊してしまう失恋を経験することもある。失恋の良い面としては、失恋を経験して成長感をもたらすことがあげられる(中山・橋本・吉田, 2017)。しかし悪い面もある。恋愛関係が崩壊した際には、精神的健康などで問題が生じる(清水・大坊, 2004)。そのような恋愛関係崩壊後の行動について、加藤(2005)は、成長できたというポジティブな面と未練、敵意などネガティブな面を区別し、コーピングという概念でとらえた。先行研究からは、恋愛関係崩壊後のコーピングに影響をもたらす要因に、恋愛崩壊パターンと恋愛崩壊時の行動があると考えられる。

これらは日本人を対象とした知見であるが、中国人大学生ではどうだろうか。中国人大学生は恋愛と結婚を一緒に考える傾向が高いこと、家族が恋愛に重要な影響を及ぼすことなどにおいて、日本人大学生とは違うところがあるとされる(進藤, 2008)。また、2000年以来、中国人大学生の恋愛観は大きく変化してきた(苏, 2020)。

そこで本研究では中国人大学生を対象に、恋愛崩壊時のコーピングが、(1)恋愛崩壊の状況、(2)恋愛崩壊時にとった行動とどのように関連するのかを明らかにすることを目的とする。(1)については、①交際の有無(交際終了か片思い終了か)、②恋愛崩壊の主導権、③恋愛崩壊の理由、④恋愛関係の進展度、⑤相手への

愛情との関連について検討を行う。また恋愛研究では性差も繰り返し検討されてきたため、性差要因の検討も行う。

調査

1. 調査方法および調査協力者

インターネット調査会社騰訊問卷に大学生を調査対象としたデータの収集を依頼した。回収できた調査協力者数は315名だったが、本研究では失恋について検討するため、失恋経験が「ある」と回答した、180名を分析対象とした。男性80名(44.4%)、女性100名(55.6%)であった。

2. 調査時期

2020年11月～2020年12月。

3. 調査内容

(1) フェイスシート

性別、年齢、学校種について尋ねた。

(2) 恋愛崩壊状況を問う項目

失恋経験、失恋までの恋愛期間 恋愛・失恋経験の有無を尋ねた。経験がある者には、恋愛崩壊までの恋愛期間を記入してもらった。

恋愛崩壊パターン ①交際の有無：片思い終了か交際終了か。②恋愛崩壊の主導権：誰から別れを切り出したか。③恋愛崩壊理由：牧野(2004)と江(2012)を参考にした12項目について、あてはまりを4件法で回答する方法と一番当てはまるものを選んでもらう方法。④恋愛進展度：松井(1993)による5項目、2件法。⑤相手に対する愛情：Rubin(1970)のLove Scaleのうち愛情に関する13項目(藤原・黒川・秋月, 1983訳)。5件法。

(3) 恋愛崩壊時の行動

和田 (2000) による恋愛崩壊時の対処行動 20 項目, 5 件法。

(4) 恋愛崩壊後のコーピング

加藤 (2005) の作成した尺度 74 項目から因子負荷量が高かった 36 項目を使用した。5 件法。

結果と考察

1. 恋愛崩壊の理由, 恋愛崩壊時の行動, コーピング尺度の検討

因子分析 (最尤法, プロマックス回転) を行い因子構造を検討したところ, 恋愛崩壊理由の尺度は「性格不一致」, 「外的条件」, 「恋敵」の 3 因子, 恋愛崩壊時の対処行動尺度は「説得・妥協」, 「回避・逃避」, 「相談」, 「同調」と 4 因子, 恋愛崩壊後のコーピング尺度は「未練」, 「肯定的解釈」, 「関係解消」, 「置き換え」, 「敵意」の 5 因子が抽出された。コーピング尺度のうち, 未練については男性の方が女性よりも高い得点を示していた。

2. 恋愛崩壊パターンとコーピングとの関係

相手から別れを切り出されると崩壊後の未練は多くなるが, 肯定的解釈も多くなっていた。また, 相手への愛情が深い状態での恋愛崩壊の場合は, 未練が多くなっていた。交際の有無や男女差はあるが, 崩壊理由の外的条件が理由となる場合, 肯定的コーピングと関連していた。男女ともに, 性格不一致, 恋敵で交際関係が終わると, 相手への敵意は高くなった。恋愛の中で互いの性格不一致に気づくことは, 相手の欠点を受け入れなくなることや, 喧嘩が増えることを伴っているだろう。そのため, 否定的コーピングに陥りやすくなるのではないだろうか。

3. 恋愛崩壊時の行動とコーピングとの関係

男女ともに, 崩壊時の説得・妥協行動, 回避・逃避を多く取れば, 相手への未練も肯定的

解釈もしやすくなることが示された。また, 説得・妥協行動は相手から別れを切り出される場合に, 相手への愛情が深い場合に, 多く取られることがあった。また, 崩壊時に相手と相談することが, 崩壊後の肯定的コーピングと正の関係にあった。相談することは, 相手への愛情の深さと関連していた。片思いの男性では, 説得・妥協, 回避・逃避相談, 同調の行動をしても, 未練は高くなる一方であった。

4. 総合考察

本研究の結果からは, 中国の青年の場合, 恋愛関係に対して説得・妥協, 相談のような十分に努力する行動をとることが, 恋愛崩壊であってもその関係を肯定的にとらえることの助けになることが示された。また, 別れの主導権については, 顔・贾 (2018) では別れの主導権を持つ方が優位な立場になると示されていたが, この研究では違う結果が見られた。主導権を持つ者は未練が少ないが, 恋愛関係崩壊時に積極的な行動をとることも少ないようであった。その行動を後悔してしまって, 肯定的な解釈をしにくい可能性が考えられた。片思いの男性では崩壊を迎える際にあらゆる行動をとるが, それは, 相手を常に意識しているからであろう。その意識によって片思いが終了しても未練が残ってしまうと考えられた。

5. 今後の課題

本研究では異性愛だけを検討したため, 中国青年の恋愛崩壊を全般的に把握するには至っていない。対象を広げてさらなる検討する必要があるだろう。また, これまでの恋愛経験による影響の違いや, 別れの主導権がもつ意味についてもさらに検討する必要がある。

主任指導教員 中間 玲子
指導教員 中間 玲子